

科目ナンバリングコード	CggZ243101	授業科目名	京都の伝統工芸講座 1		
担当教員名	淡田 明美、米原 有 二				
履修可能開始学年	2年	単位数	2.0単位	授業区分	週間授業
開講年度	2026年度	開講学期	2026年度1Q、2026年度2Q	開講曜日・講時	金曜3限
主要授業科目		クォーター開講科目		セメスター開講科目	

科目分類	グローバル科目	抽選科目		教室	
授業形態種別	講義	授業実施形態	対面授業		
関連するDP(カリキュラム年度2017-2020)					
関連するDP(カリキュラム年度2021-)	DP-1 知識と理解	DP-2 創造的思考と考察	DP-3 技術と表現	DP-4 他者理解と協働	DP-5 社会への関心と行動
関連の有無				●	

科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html">https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html</a>	ディプロマポリシー（DP）の説明ページへのリンク	<a href="https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html">https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html</a>
---------------------	---	--------------------------	---

サブタイトル
京都の「伝統」を受け継ぐ工芸作家・職人が語るものづくりの源泉に学ぶ
授業の目的・到達目標 <div>             (1)各分野の講師が語る「伝統と創造」について意欲的に考える姿勢を身につける。              (2)「生活における工芸」「芸術における工芸」「産業としての工芸」の定義や対象を明示的に説明できる。              (3)現代における「伝統」と「工芸」について論じることができる。           </div>
授業の概要 <div>             京都の伝統美術・工芸に携わる作家や職人、デザイナー等毎回異なる分野のゲスト講師を迎え、それぞれの専門テーマで講義をおこなう。多彩な講師陣はいずれも各界の一線で活躍する方ばかりであり、その創造活動に基づいた講義内容からものづくりの技術や背景を学ぶことは得難い機会である。本講義は「京都の伝統産業実習」（夏季集中授業）の参加に向けた推奨講義としても位置づけられており、講師陣には実習受け入れ先工房・企業も含まれている。           </div>
実務経験／実践的教育 <div>             京都の伝統美術・工芸に携わる作家や職人、デザイナー等の講師がそれぞれの専門テーマで講義をおこないます。【実務経験／実践的教育】           </div>
授業計画 <div>             授業予定              ※ゲスト講師は前年度までの実績例。変更の可能性がある。             <div>               (1) ガイダンス（本学教員）                (2) 「京友禅」森口邦彦 氏（国重要無形文化財保持者）                (3) 「西陣織」細尾真生 氏（株式会社細尾 代表取締役社長）                (4) 「京人形」面屋庄甫 氏（京人形司 面庄十四世）                (5) 「茶の湯釜」大西清右衛門 氏（千家十職釜師 十六代・大西清右衛門美術館館長）                (6) 「手仕事とデザイン」新山直広 氏（TSUGI 代表）                (7) 「茶筒」八木隆裕 氏（株式会社開化堂）                (8) 「唐紙」千田優希氏（唐長 十二代目当主）                (9) 「仏像」江里康慧氏（平安仏所 仏師）                (10) 「生け花」笹岡隆甫氏（末生流笹岡家元）                (11) 「風呂敷」山田悦子（山田繊維／むす美）                (12) 「木桶」中川周士 氏（中川木工芸 比良工房 主宰）                (13) 「手仕事とデザイン」／金谷 勉 氏（有限会社セメントプロデュースデザイン代表取締役・プロデューサー）                (14) 全体のまとめ（本学教員）             </div> </div>
授業外学習の指示（予習・復習・課題等）

単位制度の趣旨に則り、次に示す授業外学習(自学自習)時間が必要です。 【1単位につき週あたりに必要な自学自習時間】 クォーター科目：講義・演習 4. 時間、外国語・実習 2.5時間／セメスター科目：講義・演習 2.25時間、外国語・実習 週1.25時間 ※2単位科目の場合は上記を二倍、3単位科目は三倍してください。また、演習科目はカリキュラム年度によって授業時間と自学自習時間の配分が異なりますので、シラバスや科目担当者の授業内での指示に従ってください。この科目では授業外学習として、以下の内容に取り組んでください。

単位制度の趣旨に則り、この授業では1週あたり9時間の授業外学習が必要になる。  
講義時に紹介された文献や展覧会、伝統行事などについて調べることを。情報館3F TIC資料室の資料を活用してください。

評価方法・評価基準

授業参加度：70%  
期末レポート：30%

履修条件・留意点及び受講生に対する要望

授業内での感想や疑問点等は積極的に各回のコメントカードに記載すること。

購入必須テキスト

なし

参考文献・作品等

参考WEBサイト（サイト名・URL）

京都精華大学 「京都の伝統産業実習」 <https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/features/taac.html>  
京都市 「京都の伝統産業」 <https://densan.kyoto/industry/>  
伝統工芸 青山スクエア（日本の伝統産業） <https://kougeihin.jp/>